

2020.9.19

紙つぶて

菅義偉さんが首相・自民党総裁になった。彼は、民主党衆院議員だった私の一期前の当選で、本会議場で席が私の斜め後ろくらいだった(私は民主党と自民党の境目くらいに座っていた)。菅さん、というと覚えているのは、そのヤジである。

安倍晋三前首相も官房副長官のとき、本来政府席からヤジるべきではないのに、「日教組がー」とずっとヤジっていた(小泉純一郎首相と菅直人さんの党首討論で目撃)。安倍さんのヤジはどちらかというところ「感情ただ漏れ」的なもので、苦笑できる範囲内だったとも言える。だが、菅さんのヤジは、もっとすごみがあって、ちょっと怖かったことを記憶している。

国会議員のヤジ

水島 広子



国会のヤジについては、いろいろな意見がある。学級崩壊のように感じる人もいるだろう。行儀がなっていないと考える人がいても不思議ではない。

しかし、例えば英国議会では、ウイットに富んだヤジを飛ばせるかどうかで評価が決まる。棒読みの本会議、ただ黙って聞いている野党―では本質がわからない、ということもあるだろう。

私は、安倍さんや菅さんのような、ただやかましい、相手をバカにしたりどう喝したりするヤジには大いに反対だが、ヤジを国会の活性化にもっと生かせるのではないかと思っている。あわよくば、上質なヤジに対して、きちんと切り返せる人が国会議員であってほしいと思う。(精神科医)